

第 1 分科会記録

1 分科会の主題 「家庭と地域で育む子どもの生きる力」

提案者	NPO法人 ぐるったネットワーク大町	鈴木 幸佳
助言者	あおぞら法律事務所	金枝 由香里
司会者	大町北小学校教頭	坂井 一夫
記録者	大町市生涯学習課	清水 智之
世話係	大町市子ども会育成連絡協議会	百瀬 泰慶

2 提案要旨

(1) 提案① 子どもを取り巻く環境

【1】子どもに身に付けてもらいたい力

親や地域の大人から、子ども達に身に付けてもらいたい力は「学力」、「正義感」、「判断力」、「運動能力」、「向上心」、「人を思いやる心」などがあり、昔と変わらない。

【2】30年前と比較した現代社会

一方、現在の社会は「誰でも簡単に欲しい情報にアクセスできる」、「新しい技術で未知の仕事が生まれている」、「人工知能（AI）の普及」、「大学に行っても就職できるとは限らない」、「価値観の多様化」、「地方の過疎化が進む」、「予期しない災害」、「世界の中での日本の地位の低下」など大きく変化している。

このような先の見えない不確実な時代では、「自分で考え、選ぶ力」が求められている。

【3】グループワーク

社会環境が変化する中、子育ての上でどんなことが心配であるかをグループ毎にディスカッション。



(2) 助言者から①

皆さんのディスカッションの様子をみて、今何が課題かを向き合って話し合う場は大切だと感じた。様々な立場からの意見があり興味深かった。

多かった意見として、SNS やスマホの多用により、対人のコミュニケーションがうまくできないのではないかという心配があった。確かに、SNS やスマホばかり利用していると、人と向かい合って接することができなくなってくる。SNS は人との関係を簡単に繋ぐことができ、また簡単に切ることができるが、実際の対人関係はそうはいかない。

対人コミュニケーションが十分にできた上で SNS を活用することは問題ないが、対人コミュニケーションの土台がない中で、簡単に関係性が切れるコミュニケーションをすること問題があると思っている。

また、情報が多すぎるという意見もあった。インターネットの普及で簡単に情報を得ることができるが、情報が多すぎて何が正しいのかわからなくなってしまう。情報リテラシーを養う力も必要だと感じている。

この地域の特徴であるが、進学などでいったん地域を出ると戻ってこなくなってしまうという心配があった。子どものうちから地域愛を醸成していくことで変わってくるのではないかと思う。現代は在宅ワークなども増えてきているため、当地域でも積極的に取り入れていけば良いのではないか。

戦争がいつ起きるかわからないという心配もあった。遠い世界のことに捉えがちだが、自分事として関心を持ち子どもとも向き合って考えることができれば良いと思う。

(3) 提案② ぐるったネットワーク大町の活動紹介

ぐるったネットワーク大町では子ども達の成長過程に合わせて、様々なプログラムを実施している。「自分のやりたいことを見つけてほしい」、「いろいろな体験をしてほしい」、「いろいろな大人に出会ってほしい」、「ふるさと大町を好きになってほしい」との思いで各種プログラムを実施しており、活動を通じて、「自分で考え選ぶ力」を育むことを目的としている。

【1】事例1 野外体験

八坂の竹林整備や川遊び、昆虫観察、雪遊びなど地域の自然を生かした活動や、子ども達が主体となって電車で糸魚川まで行くなどの活動を行っている。



【2】事例2 ボランティア活動

地域への貢献を目的とした、わっばらんどや竹林の整備、参加者と交流することで地域を見直すきっかけづくりとなる。自転車イベントの補給食提供ボランティアや夏休み宿題片付け隊などを実施している。



【3】事例3 起業体験

起業家的な精神と資質・能力を育む教育と新たな価値としくみを創ることで、地域課題を解決する力を育てることを目的としたアントレナーシップ教育を実施。

中高生を対象とした起業塾や、大人を対象とした勉強会を行ったり、新たなプロジェクトから新しい価値を生み出す体験として、サークル団体と協力して「山の日プロジェクト」と銘打ち、大町らしいかき氷を企画販売し利益も出している。

また、職場体験やインターンシップを受け入れる活動も行っている。



活動に参加した子ども達が参加者を卒業すると、ボランティアとして携わる仕組みづくりができており、運営側から体験、挑戦できる機会を提供している。

【4】グループワーク

子どもが好きなことに会うために、家庭や地域で何ができるかについてグループ毎にディスカッション。

A グループ

子どもに様々な体験をしてもらうことが大切。そのために地域が受け皿として体験の場を創り、家庭がそこへ参加するよう後押しをする。またその情報を得やすくするため、一覧表を作るなど広報を強化する。

家庭では親が子どもに大町愛を醸成できるようにする。インターネット等で簡単に調べられることもあえて家族で一緒に考えてみる。

B グループ

家庭は、子ども達を外へ連れ出し行事に参加するなど親子で参加できる機会を増やす。様々な体験活動とおおして、好きなことを見つける。

地域は行事などを絶やさず、受け皿とするなどし、地域とのかかわりを持ち続ける。



C グループ

家庭、学校、地域それぞれでいろいろな体験ができる環境づくりに努める。

体験活動に子どもだけでなく親も参加し一緒に楽しむ。行事等に参加することで、様々な年代の人と交流ができ、その交流の中で子ども達に役割を持たせ、責任をもって何かをやり遂げることが大事になってくる。

D グループ

子どもにはボランティアなど人と関わる様々な体験をさせることが大切だが、どのように興味を持たせるかが課題となる。

そのような体験をさせるには、親自身や地域が子どもに関することを勉強する機会をもっと増やし、理解・共有することで子どもと接していくことが、安心・安全な居場所となっていく。

家庭では親が積極的に参加し、学校ではコミュニティスクールなどを活用して、一緒に育てていくことができれば良いのではないかと。

E グループ

親ではなく子どもがやりたいことを地域・家庭が協力して実施することが大切である。そのためには、子どもを指導する人を地域が支援し、活動しやすい環境づくりに努めることが地域や家庭の責任である。

F グループ

家庭では子どもたちの意見を聞くことが重要である。子どもの日常を観察し、対話することで子どもの考えなどを知ることに関心することが重要。

地域は最低限のインフラ整備が必要。この地域で生活し働く上で道路などの整備は必要である。

また、当会議などで出された意見を他の人にも伝えて地域全体で検討していくことが大切。どのように伝えていくべきかを皆で考えていきたい。



(4) 助言者から②

A グループで情報を得やすくしてほしいとの意見があったが、必要な人に届かない現状がある。より簡単に学校へ直接情報を伝えるなどなるべく多くの方に情報を届けられるような工夫を行政や地域に望む。

大町愛を醸成するとの意見があった。子どもに対して大町は何もないと言う親がいるが、世界に誇れる自然など良いところがたくさんある。子ども達には良いところを伝えてほしい。

また、インターネットで簡単に調べず、あえて家族と一緒に調べてみるとの意見もあったが、やり方として調べる前にまず仮説を立てて考えてみる事が大切。そのことによっていろいろな角度から物事を見ることができたり、考える力が養われたりするので積極的に行ってほしい。



B グループで、地域の行事を絶やさないとの意見があった。少子高齢化で地域の行事を維持していくことが難しい状況である。各地域同士協力し合い、合同で行うなど工夫してもらえたら良いと思う。その際、送迎などの問題も解決していく必要がある。

C グループでは、様々な年代の交流が大切だとの意見がありとても大切なことだと思う。子どもだけをターゲットにすると人が集まらない。子ども対象の行事であっても運営を中学生が担ったり、食事提供などを地域の大人がしたりすることで、それぞれの役割ができ、異世代の交流となるためぜひ実施してもらいたい。

D グループで意見のあったコミュニティスクールは当地域の強みである。地域の事業に直接関わるだけでなく、企業や個人が資金面で協賛してくれる仕組みづくりができれば良いと感じる。子ども支援に対して資金提供したい方は一定数いるのではないかと。

Eグループでは、子どもを指導する人を地域が支援できる仕組みが必要との意見があったが、上述したように、手弁当で参加してもらっている方を資金面で支援できる仕組みができれば良いと考える。活動には直接参加したくないが、資金面で協力したいと考えている方から援助してもらえらる仕組みづくりができれば良いと考える。

Fグループでは、当会議で出た意見などを広く広報してほしいとの意見があったが、その通りだと感じる。積極的に発信していただきたい。



ぐるったネットワーク大町の発表で、子ども達に身に付けてもらいたい力が何個か挙げられていたが、一番の願いは心身ともに健康に育ってほしいということではないか。

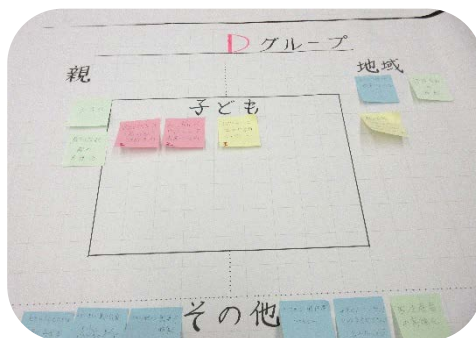
健康の維持を支えることが大切である。ゲームばかりだと体力が低下し、心も弱くなる。なるべく外に出ることが大切である。

また、スマホなどで世界に繋がることは子どもにとって危険なことである。大人が見本を見せて、しっかりと管理してほしい。

失敗を許容することも大切である。失敗から学ぶことが多くある。失敗して悔しい思いをすると、どこがダメだったかなどを自ら考えることができる良い機会となる。物事を分析できる訓練ができるのではないか。

失敗を恐れると全力でできなくなってしまう。力いっぱいやることの大切さを子ども達に体験させるためにも失敗を許容することが大切である。

今後とも青少年の育成にご協力をお願いしたい。



誰でも簡単に欲しい情報に
新しい技術で未知の仕
人工知能(AI)の普及
大学に行っても就職できる
価値観の多様化 地方の過疎
予期しない災害(豪雨・地震)